三才雜録

廿二

特1000
3

九号冊六ノ廿二

帙入

国立国会図書館　三才雜録 特1000-3

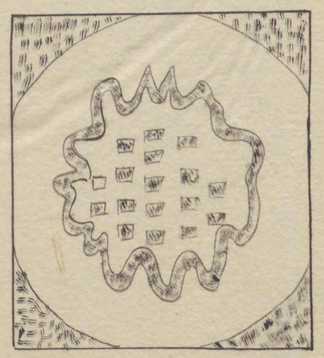
ガラス使用

特1000-3

帝国図書館蔵

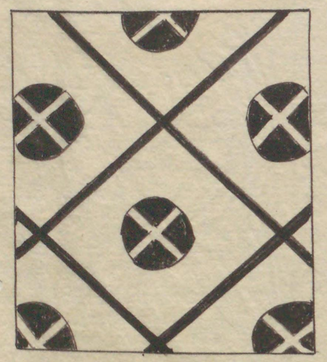
御畳縁図〻

大紋縁



御上段向
御床
御上ヶ畳

小紋縁



御下段向
御女中様方
御居間
御寝間向

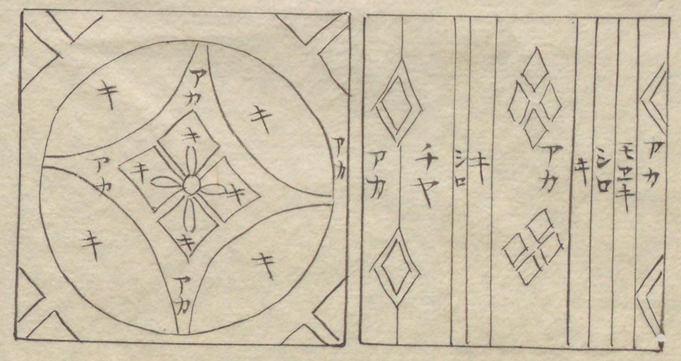
朽木文庫

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

御宮御霊屋
御内陣并御勝着

御宮御霊屋
御扉下
御拝殿



徳弦縁
両美縁

御霊屋

枕如絹
紅梅縁
日光御宮之御石之間并
御拝殿廻り補御畳下縁
上ゝ高宮縁　黒
御茶屋御腰掛ケ
上高宮縁　黒
所ゝ御座補向御縁向
柿高宮縁　紺
御茶屋向薄縁

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

中高宮縁　紺
所〻御座補御次向
上近江布縁　紺
御休足御座之間御下段御次廻り
中近江布縁　紺
中奥通り御座補向
下近江布縁　紺
御霊屋常補薄縁
白晒縁

日光　御霊屋御縁薄縁其外脇着ホ
布縁　紺
末〻之間
浅黄布縁
御掃除御用薄縁
枡布縁
右同断
布小役縁　小役形如初
日光　御宮御縁薄縁

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

山王氷川并所〻御購所上段

白布縁　是ハ大役小役繧繝両美〻下縁、遣申候

右十八品

古鎧色目

緋威鎧　一作火威　保元物語　盛衰記　義経記
平家物語　明徳記　兼久記
大平記
増鏡　續世継　尺素

緋威腹巻　義経記　曽我物語
緋威鎧補目ニ拵タル　保元　太平
糸緋威　志太草子
同胴丸　高舘　志太　鎌田
紅威　東鎧　盛衰記
紅坐濃　平治　東鎧　太平記
黒糸威　保元平治　平家　東鎧
盛衰記　義経記　太平記

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

庭訓　同異訓　湘山星移集

同腹卷　平家平治　盛衰記
義経記　明徳記

赤革威　平家　盛衰記　東鑑

赤糸威　平家　東鑑　盛衰記
梅松論　古事讀

赤威肩白　盛衰記　尺素

扇白赤威　東鑑

赤革肩白　梅松論

小櫻革威　東鑑

小櫻威　義経記　尺素　異訓庭訓
高館　庭訓

同腹卷　盛衰記

櫻威　東鑑

萠黄糸威　盛衰記　庭訓

同腹卷　盛衰記

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

萠黄威　東鎧　平家物語　盛衰記
同腹巻　盛衰記　義経記
同胴丸　曽我物語
モエキ白　平治　盛衰記　平家物語
義久記　鎌田
同小腹巻　義久記
藤威　東鎧
黒革威　康保太　義梅
庭訓

同大荒目　盛衰記
同コカネマセダル　平家物語
紫糸威　東鎧
紫唐濃　平治　平家物語　盛衰記
大平記　大草子　テイキン
浅黄糸　保元
藍白地黄返　保元
小櫻黄返　平家物語　盛衰記

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

黄白地　義経記
黄糸　太平記
黄威　梅松論
黄威腹巻　太平記　梅松論
白糸　太平記
同妻取　明徳記
唐綾威　平家物語　太平記　梅松論　庭訓
紺唐綾　太平記

白唐綾威大荒目　保元
朽葉唐綾　同
萌黄唐綾ヲタヽミテ生紅ニ威タル　盛衰記
澤瀉威　保元　平治　義経記
萌黄澤瀉威　盛衰記
澤瀉腹巻　義経記
逆沢瀉腹巻　義経記　尺素
伏縄目　保元　平治　太平記　庭訓　盛衰記
義経記　尺素

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

紫威　盛衰記
紫革　保元　梅松論　イセイ
洗革　平治　平家物語　盛衰記　太平記
同婁取　太平記
同腹巻　盛衰記
卯花威　保元　太平記　庭訓　増鏡　高館　尺素　イセイ
同婁取　太平記
櫨白　平家物語　太平記　尺素

品川威　盛衰記　天素　平家物語
紺糸威　太平記　庭訓　イセイ
同腹巻　盛衰記
白幅輪紺糸　太平記
赤糸威　盛衰記　太平記　兼久記　梅松論
同腹巻　太平記
樫取威　或作鷲威　太平記
唐錦　高館

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

ハタスリゴ　盛衰記
黄返　同
徠賀威　イ本明徳
大荒目　太平記
同一枚交　盛衰記
三枚革同　保元
同コカ子交タル　平家物語
麹塵筒九　太平記
筒九腹當　明徳記

熏革腹巻　應仁記　フスヘカ
白幅輪　太平記
朱札赤糸具足　應仁別記
胸板白腹巻　義経記
糸毛鎧　太平記
鉄鎧　續日本記　盛衰記
金鎧　東鑑　百徠抄
革鎧　續日本記　三代記　延喜式

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

黒革威腹巻　應仁記
フスヘ革　イ本太平記
ハナダ色威　尺素
赤革　黄糸　庭訓
色革威　三方太平記
紺スワコ　同
金フクリ　同

○鎧威毛ノ名其始詳ナラス續世継ニ大内記保亂トシ博士人ノ文ノ得失ヲ評論シテル見タリ是中ニ匡平ノ文ヲ評シテ云ル其詞ニ云匡平カヤウハモノハ婦ノアケノカハ緋革シテヒヲトシトカハシリメルキテエナシ又コマノアシトキニノリテアフサカノセキヲコユルケシキナリトヲ申ケルト云ヘ保亂ハ二條帝ノ時ノ人也蜷既ニ緋威ナトヽ云名アリ然レハ威モノ名猶ソレヨリモ先ノ代ヨリ有ヘケレトモ其始ハ詳ナラス

諸國関所

相州箱根　同根府川
右大久保加賀守
遠州今切　松平伊豆守
房州渡中口　御代官
同人ヶ町松戸　伊奈半左ヱ門
同小岩市川　同人
武蔵小俣　御代官
同新ロ川俣　忍城主
上州大戸　御代官
同木ニヶ橋　高崎城主

同五料　前橋城主
同碓氷　安中城主
下総関宿　関宿城主
遠州氣賀　近藤登
同今橋　御代官
越後市振　高田城主
同関川
同鉾崎　飯田城主
信州清内路
同小野川

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

波合　知人帯力
心川　御代官
帯川　同
上州大笹　同
同猿ヶ京　同
甲州鶴瀬　同
同　本柄　同
同　万沢　同
信州福嶋　山村甚兵衛
同　熨川　同

近江鈗熊　郡山城主
同　桶瀬　井伊氏
同　山中　朽木監物
上州南牧西牧皐　伊奈半左ヱ門
同狩宿　御代官
武州忍方村　同
同上杓田村　同
上州大渡真正　福嶋
同戸倉　前橋城主
御代官

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

相州何村谷ヶ村　仙石原
矢倉沢　小田原城主
同單坂青野原　御代官
武州檜原　同伊奈氏
越後山口　忠川
武蔵中川　圓美川城主
御番三人

黒船合戰之覚

慶長十五年庚戌十二月夜長崎ニ於テ有馬
修理大夫晴信黒船取奪次第根元ハ
家康公様ヨリチヤンハ下申御羅御尋被成候
其比長崎奉行長谷川左兵衛被仰付
後胥共一四無御座不差上ス然ル所晴
信次弟覚少シ進上仕ル処御嫌機能御
座ル其後チヤンハヘ手遣仕御羅御求被成
度旨間修理大夫手前ヨリ才覚可仕旨
被仰付銀子六十貫目并鎧金屏風
御渡被成修理夫自分ニモ色ニ進物ス

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

遣候就夫能唐船ゟ仕立於長崎ニハ
案内存ヲアンシ雇久兵衛ト申者ニ道具ノ
者三人夫二人差遣ヲ処ニ天川ニ無恙今
着津ちやんちゃの順風待居ヲ然ル所
修理大夫取ヲ黒船ハかゑゝうんの内ノ者
ト右六人者ト天川の町ニて喧嘩仕ゑ
たんの者共ゟ右のすゝ討果申ヲ其晩
久兵衛宿ニ黒船のちゃんちゃんゟ
七八十人押ケ久兵衛初トシテ六人共
不残討果剰御銀其外悉奪取申ス

右ノ内ちゃんヲ南蛮人ゟ請ケ其場ゟ
逃去唐の地ニ渡其年の九月日本ニ帰り
晴信ニ右之様子申ニ付則ちゃんを召ス
駿州ニ参勤仕本多上野介ゟ上意趣
言上仕ル処曲事者ニ付黒船のかゑゝん
御討可被成由御評定極ル然所翌年右之
かゑゝん為商買日本ニ忍渡ヲ彼黒船可被
召捕ヲ処修理大夫御請私一人ニ被仰付ヲ枕ニ望
奉ニ処彼黒船ハ大船ノ事ヲ其身小身ニヲ
一人ゟ取損ヲ付其ニ方事ハ覚悟の前ニ

日本の名あれそれ間相應之者可被差
加申　上意の処是非私に可被仰付申達
て言上に付則御免に成御暇被下候
十二月六日在所へ下着七日に手紙ヲ三十
人斗召ひれ長崎へ出ろ　長谷川
左ヱ衛と相談仕かたをんを庄屋所へ
召寄殺す談合とてかたをん方へ左ヱ衛
ヲ以使庄屋所迫ひろ相談之
義有之ヲ申ヲ聞ろ御成相ひかの段
を前以かたをん義の子細其時代上方関東

筋迫も吉利支丹門寺所へ在之付る法ヲ
果に拵ヲ内通仕者在に付船中其覚悟仕
一人も陸へかろ不申かをんも上ろ申
間補ヲ申付翌八日重ヲ使差出ス
別義ろに条是非あろ左ろに
吉利支丹寺の為ニ不に成義之申申
ヲ聞ろ黒船近く使船をろを不申其節
使に下間補ヲ致返事其上船拵仕可
致出船旨相見に然処其節西風甚シク
止間を待居申嚴早可仕れ無之林田佐野

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

左門駒野池九郎右左門と申者此度此黒
舟不討洩ハ及切腹外無之ニ付間両人使申
付ハ此節之義ニ付間九腰ニて懐服指を指
ゟ元ゝ人ニ致面談指遣ハ之のゝ申合ハ両
人共ニ畏入則黒舟ニ乗ハ所ニ石火矢を構中と
ハ一ツ寄付不申ハ色ニ断申ハ得共兼引
不付此上兵船共ニ可討取由ニて吉加村ニ山田
兵部居申ハ所迄召寄召置ハ足軽大将四五人
其外高木居申ハ侍雑兵共不残乗越ハ様と
申付ハ其後風も少ニ止申故出船ハ処沖ハ

未風波強ハ有深堀と申所迄三里余ハ碇を
ゟけ申有小船六艘上乗有馬左門佐城
弥平次安富河内井上蔵人山田和泉為名代
有馬備中申付修理大夫小早舟ニ乗津口迄
乗出ハ
翌九日長崎之猟船数艘ニ焼草を積火を
付風上ゟ流掛ハ得ハ存候ニ乗不申其後
十五六艘帆の船二艘も やゝ見せいろゝを黒舟
の高ゝゝ但上十日ニハ高来ハ人数駝乗ハ
十二日せいろゝに乗後ハ上乗ハ谷川角兵衛

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

高橋主水久能善右エ門竹富勘右エ門黒
舩と棲橋の間十七八丁程と掛居ル所十二日の夜
修理大夫せんろ〜舟こゝ付ル者明日夜明可討
捕ル条面〜可得其意よ〜ゝ渡ル荒ろ〜
舟より谷川高橋十二日成刻黒舟〜押よせ
林田助市黒舟のそもに棲橋舟を押ケ相
うきてゝけゝル又ゆ〜ゝけ舟一捜上乗鷲屋
七ゝ亟井上藏人林田作ゝ右ゝ門是より かきてゝけ
一同〜乗移ゝ処〜黒舩より鎗ゝ〜防ぎ塩焔
ゝ火砲をうけたけ働きゝ処此方〜かけル

火砲の火帆ゝ焼付燃上り火煙甚く働不
成ル故棲橋舩ゝ乗移ゝゝ追付塩焔
砲〜火移りゝゝル間修理大夫舟も先遠除
ル様ゝゝ所ゝ如案塩焔〜火移十二日夜四時
過〜黒舟焼沉ゝル其後長谷川左兵衛乗出
参會黒舩ハ討果ル条々荷物其外積荷物
海上不見合様〜浮上りル御物〜成可ゝル間
可然様〜可有下知ル私ゝ在所〜乗帰ル
ゝ届十三日〜帰城仕ル同十五日在城発足
駿州ゝ乗越右〜言上仕ル処

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

家康公様御既御腰物御直ニ拝領其上
黒舩の荷物以下迄被下ハ〻〻　上巻有
右之趣
秀忠公様ヘね言上之本多佐渡守殿迄以
使札ヲ遠ハ所被令披露ハ〻〻て佐渡守
〻〻紙面
大御所様〻被仰付ハ黒舩御成敗ハる
成条府ハ所御所様既ハ召御腰物
御直ニ御拝領猶更黒舩之荷物以下
迄被下置ハ〻〻蒙仰ハ誠一方なら
御事難ヲ謝ハ其通　将軍様ヱ披露
仕ハ処不大形御既着被思召ハ一段之
御仕合共ニ御座ハ委曲期後喜之時
不能一二ハ恐惶謹言

正月廿三日　本多佐渡守
有馬修理大夫様　正信
御報

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

尚以御聚之旨能〻御守其許諸事
御奉公肝要之御事ハ
黒船ヲ討死之人数

安徳宮内
久能善左門
北市之亟
平井左兵衛
鷹屋四郎兵衛
林田弥六
馬場左門八

林田久八
結城傳七郎
馬場七郎左門
定軽
林三助
西〻玉郎右門
金子助作
渡追庄次郎
岸安助
道具之者
右之門作

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

上野國多胡郡碑銘

弁官符上野國片岡郡緣野郡甘。良郡并三郡内三百戸郡成給羊。成多胡郡和銅四年三月九日甲寅。宣左中弁正五位下多治比真人。太政官二品穂積親王左大臣正二。位石上（尊。朝臣カ）右大臣正二位藤原尊。朝臣カ

右六行八十字

石高四尺四寸闊二尺厚一尺八寸五分

覆石方三尺額厚六寸

下野國郡須國造碑

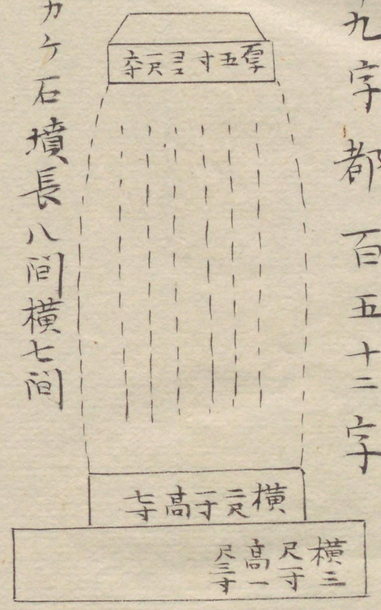
永正元年己丑四月。飛鳥洋御原大宮那須國造。追大壹那須宣事提評督被賜歳次庚子年正月。二十子日辰節弥。故。意斯麻呂等。立碑銘云示。仰惟。殞公廣氏尊。胤。國家棟梁一世之中。重被貳。照一命之期連遐再甦。碎骨視髓。豈執前恩是

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

以。曾子之家、无有二嬌子一仲尼之門、无有二罵者一行孝之。子不改、其語銘夏堯心照乾六門童子憶香。咖坤作徒之大合言喻字故無翼長、无根更固

八行十九字都百五十二字



惣高四尺ミカケ石墳長八間横七間

元明天皇大示保山御陵碑

大倭國添上郡平城

之宮馭宇八洲

太上天皇之陵是其

所也

養老五年歳次辛酉

冬十二月癸酉朔十

三日己酉葬

碑石長三尺濶二尺余厚一尺嘗聞東

大寺要録所載亦同

乃楽善城寺内有古碑数十年前善城
寺西三町許山崩所出而移之此云俗呼
函石因其所出之地曰函石谷
續日本紀養老五年十月　天皇詔可
考

佐渡國　廻り五十里　十三町　三十間　坐廿六里
鶴崎より沢根迄南北横十三里
小川より東浜清水迄東西

漆嶋　廻り五里十八町　十三間　坐一里十七町

横十八町　橋長十七間

村数二百六十二村
七十七村　羽田組　五十二村　夷組五十四村
大野組七十九村　小木組村〻　御林二百七
十五所　同百姓林三千六百六所

八幡堤　坐百七十間　深二丈
横廿六間

相川町数七十一町　同津　五ヶ所
在〻津　五ヶ所　浦〻　五ヶ所
相川寺数七十七ヶ寺　同宮九社
同堂　一宇　郷中寺四百三十五ヶ寺

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

同宮社　三百十二社　堂　百五十九

高十三万石余　延享二改

惣人数九万五千九百五十九人

男四万九千五百四十五人

女四万六千四百十四人

家数一万七千三百三十軒

馬千九百九十一疋

牛五千九百八十六疋

御役家百十六軒

御藏廿一ヶ所

但宝暦六年御改四方七千五百五十

九人横尾六右ヱ門御代官所　三万八千

七百六人　藤沼源左ヱ門御代官所

八千九百二人相川町方

當國惣鎮守

金北山大權現

一宮

大月神社　今不見

引田部大明神

物部神社

別當　真光寺

別當　神宮寺

吉岡村

金丸村

小倉村

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

御食神社　後山村
飯持神社　河内村
越神神社　猿八村
大皆大神明　大倉村
熱麦神社　長江村

以上九社

此国遠流ノ地トナル　續日本記聖武天皇
神亀元年甲子三月諸国ノ配所ヲ
定ル　伊豆安房常陸佐渡隠岐土佐此
六ヶ国ヲ遠流ノ地トス　天平十四年十月後
桓王反ニ依テ河邊朝臣東女ヲ當国ニ流
罪ス　是初也
當国地頭根元ハ後朱雀院御宇本間
能久ヲ守護トス　其次同忠綱　其次八郎
左エ門頼綱　亦来代ニ守護トス　北條カ
代ニ洪谷藍原土屋ノ三人ヲシテ當国ヲ支
配ス　依テ本間氏ト相並テ政事ヲ行フ　或
書曰頼朝々ノ代ヨリ王番役ニ準テ西国
ヨリ上リテ京中ノ辻ニ四十八ヶ所ニ篝ヲ焼
篝ノ役人五百人　此公役ノ国三十七ヶ国
其外近江伊勢若狭越前ニ上ノ国ヲ限
テ関東北国ハ不勤　右国ニヨリ上ル人数都合

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

二万四千四人ト也右ノ列ヲ以其後モ遠国ヨリ勤ルヿ絶ス但王ノ字ヲ今ハ大ノ字ニ改ル又北面ノ武士ハ藤原氏ノ人ニ故ニ佐藤安藤加藤伊藤ナトニ云

川原田太十間系図

村上第四皇子
為平親王　深通式部卿輔公女　一品御母藤原安子

能忠　号本間左馬允　母横山權守右馬允ニ
播州住

能久　後朱雀御宇始佐渡守ゴトナル

忠綱　住播州佐渡ノ守護

頼綱　住播州移佐渡守護

是河原田元祖也号八郎左ヱ門頼綱石田村ノ城ニ住真光寺ニテ卒子五人アリ

宗忠　十郎左ヱ門雑太郡城ニ住ス保安三年始テ佐渡ニ来

泰定　源内兵衛　雑太郡住

久綱　新左ヱ門尉吉綱

重連　左近太夫新保ニ住

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

重成　式部太夫　羽茂住ス

鎌倉在番　本間家ノ事

四番ノ射手　本間四郎　光忠

貞應元壬正月七日頼経ノ若君弓始ノ射手ニ
加ル

御馬　本間次郎左ヱ門信忠

同年七月廿三日将軍家渡御駿河前司義村カ
田村山庄ノ時

三ノ馬　本間三郎左ヱ門

嘉禄二申正月朔日　御規式ノ時

一ノ馬　本間式部丞

同三酉正月朔日　同断

四番ノ射手　本間源内左ヱ門忠直

應仁二戊正月　五日　御弓始ノ時

四ノ馬　本間山城前司

寛元二辰正月二日　撫飯ノ時

御剱役　本間次郎左ヱ門

宝治二申十二月十日

五番射手

文應二酉正月九日

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

七番射手

慶長三亥正月八日

浮上弥五郎中備并上杉家信臣浮上代々ノ事

本間喜本斎秀高 當国ニ卒

本間對馬次郎左エ門

浮上弥太郎秀康

此代上杉幕下ト成米沢ヘ引越時禄千石玉フ當国退去ノ時本間ノ二字并城跡山林田地数ヲ所家老左京ニ与フ秀康米沢ニ住シ上杉隨一ノ臣トナル

同勘ヶ由 千石

同内記 五百石

子孫代々上杉家ニ在村々地頭領分ニ事

元祖本間六郎左ニ門頼綱十四代孫

本間佐渡守高山城入道

高千六百石余今ヲ高ニ直シ六千九百八十一石余領十二ヶ村居城雑太郡川原田東福城又狮子城共

本間摂津守永州高千八百五十石

居城同郡沢根白山城

国立国会図書館 三才雑録 特1000-3

ガラス使用

浑上喜本斎　秀高　七百六十石
居城　浑上

本間左兵衛豊孝　和泉住
遠江守尼　五百石

土屋下総守照邦　二方浑住
二百十石

藍原大和守紊理　居城吉井
千二百五十石

本間信濃守高滋　雑太住
四千六百石

本間遠江守正方　吉岡住

本間六郎満繁　壮方住
本間十郎高納　谷塚住
本間和泉守　新保住
浜谷十郎左ニ門真清　加茂住
同四郎左ニ門真正　哥代住
同半左ニ門真茂　梅津住
大坂御陣梅津半左ニ門今改佐竹ノ手ニ付軍功アリ子孫佐竹ニ在
浴谷三郎左ニ門真住　羽黒住
本間和泉守重由　新保住
本間源三郎孝十林　吉跡住

本間對馬守高貞　高千九百廿石　羽茂住
本間參河守高頼　高七百石　赤泊住
本間加賀守泰亮　本間遠江守幕下　城ノ腰堤
阿部兵庫義任　渋手住
石花將監　石花住
名古屋源四郎　爪生屋住

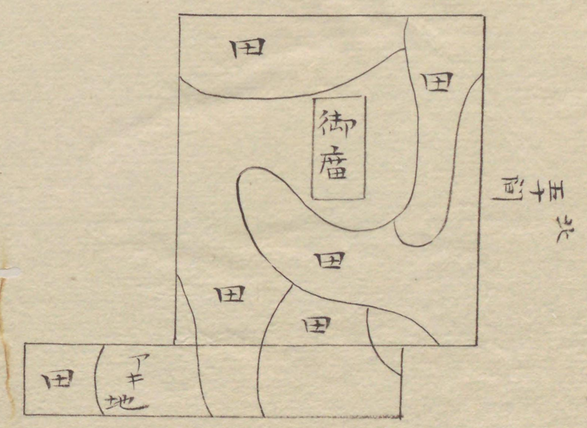
名所大槩

越菅原　羽茂郡羽茂村共、當ル高キ山天満宮アリ
雪高濱又越長濱　同所
越松原不添森氏　雜太郡
真野　同郡
憲ヶ浦　同郡
奈古継橋　同郡
二見池　加茂郡
五月雨山　同所
越湖

国立国会図書館　三才雜録　特1000-3
ガラス使用

越高根
千種里
草苅里
越海

順徳院御廟圖



御陵ハ国分寺村国分寺守奉ル今ハ御陵
遠キ故国分寺ノ末寺真野村寺輪寺
守之此圖ハ去延宝七年未六月奉行
曽根傳五郎ノ時迄ハ四方
ヲ囲ム真野寺ヽ尊像御製写ホアリ

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

壽光院　享保二年六月三日移本丸大奥
同十四年　移馬場先屋補　同十五年
濱城内ヘ移ル　寛保元年十月十日イ十二日卒
清心院　享保二年六月四日　移小川町大久保
大隅守上ヶ屋補
法心院　享保二年十二月四日大奥ヨリ馬場先
同部越前守屋鋪ヘ移　同十五年濱城
内ヘ移
蓮淨院　右同日同所ヘ移
月光院　享保元九月廿六日三丸ヨリ吹上移
宝暦二年九月十九日逝　葬増上寺

證明院　享保十六五月七日入本城同十
二月七日移西丸同月十五日御婚禮十八
年六月十五日　御着帯九月十二日御流産
十月三日逝
雲松院　享保二十四月廿三日御養女廿七日
御縁組十二月廿八日婚礼延享二閏十二月
十六日葬奥州会宮
心觀院　五十宮　元文四正月廿二日生　寛延
二三月十八日　御下向同三十一廿三日御鉄將西初
宝暦三十一月十一日御縁組御弘同四六月

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

廿二日御結納同十二月朔日西九
御入輿同六三月四日御神宴同廿二日御着帯
同七月廿一日午刻千代君生同十五
月十三日本丸入同十八月朔萬寿姫君
生
華光院　千代子　宝暦六年七月廿一日生
十一月廿二日色直閏十一月六日山王社参
七年四月十二日逝葬凌雲院
乗蓮院　萬寿子　宝暦十八月朔生同
十二九月廿九日御髪置

崇善院　貞二郎君　母於志奈方　宝暦
十二十二月　十八日生　同十三三月　十六日逝葬
凌雲院
深達院　宗尹々室　寛延二巳七月十二日
逝葬凌雲院
隨縁院　宗武々女　裕姫　寛保三亥十二月
十六日逝葬同院
瑞光院　同二男　英菊　宝暦二申八月十二日
逝葬同院
真性院　宗尹々子小五郎　宝暦二十一月
九日逝葬同院

本寂院　宗武々三子宝暦三酉四月七日
逝号友菊葬同院
瓊樹院　同四男乙菊同年四月十七日逝
葬同院
孝慈院　同嬌小次郎同年十二月八日逝葬
同院
学了院　宗尹々明和元申十二月廿二日
逝葬同院
恵学院　宗武女　延姫　宝暦九卯五月
十二日逝葬増上寺
源隆院　宗尹長子　松平越前守重昌

宝暦八午三月十八日逝葬天徳寺
源載候　尾張宗勝　宝暦十一年六月
廿四日逝五十七

類聚國史残冊篇目

巻一　神祇部一
巻二　神祇部二
巻三　神祇部三
巻四　神祇部四

伊勢斎宮　離宮附出　伊勢神部同

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

巻五　神祇部五
賀茂太神　賀茂斎院
八幡太神宮（香椎 附出）　石清水宮
巻八　神祇部八
大嘗會
巻九　神祇部九
新嘗祭（會 附出）　鎮魂
神今食（同次祭 附出）
巻十　神祇部十
祈年祭　常祀

雜祭
巻十一　神祇部十一
祈禱上（佛事 山陵 祈禱 附出）
巻十六　神祇部十六
神位（起夏 觀八年三月 尽 同十八年八月）
巻十九　神祇部十九
国造　祝（同 叙位 附出）
神宮司　内人　物忌　神賤

国立国会図書館　三才雜録 特1000-3
ガラス使用

官主　御巫　猿女　巫覡

巻二十五　帝王部五

太上天皇　追号天皇

巻二十八　帝王部八

天皇聽朝　同元服

同讀書　同筭賀

太上天皇筭賀　天皇避諱

太上天皇法諱　同尊号

天皇朝覲　朝覲太上　附生

天皇迂御　御附出

太上天皇迂御　御附出

巻三十一　帝王部十一

天皇行幸下　叙位附出起大同二年尽仁和二年八月

巻三十二　帝王部十二

天皇巡幸　天皇遊猟　叙位附出　猟使

太上天皇遊猟　叙位附出

天皇遊宴　叙位附出　太上天皇遊宴

巻三十三　帝王部十三

御膳　御厨　貢蘓

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

貢茶　服御　凶服

天上天皇　凶服　御薪

巻三十四　帝王部　十四

帝王入道　太上天皇入道

天皇不豫　太上天皇不豫

天皇招魂

巻三十五　帝王部　十五

諒闇　殯葬　改葬

迢葬　謚　誄　附出

巻三十六　帝王部　十六

山陵　太上天皇山陵

巻四十　後宮部

妃　夫人　嬪

女御　年給宮月料入　幸姫

道追福附出

宮人職員　内侍司

園司　米女　女儒附出

巻四十五　衣服部

御服　皇太子禮服　親王禮服

諸王礼服　諸臣禮服　朝服

内親王礼服　女王禮服

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

内命婦禮服　朝服　制服

巻四十七　文部下

國史　叙位講國　律令格式　叙位附出

撰書

巻五十二　別敕神階部

巻五十四　人部　二女　貢女　美女　多產　力婦　節婦

巻六十一　部名失之其文則載臣下薨逝之歲月矣

巻六十二　部名次其文則諸臣下之薨逝及小

傳記之

巻六十六　人部　薨卒

巻七十一　歲時部之二

元日朝賀　宴會附出　三宮饗宴　宴

卯日御杖　七日節會　青馬附出

巻七十二　歲時部之三

十六日踏歌　十七日射禮　賭射　臨時射

内宴　子日曲宴

巻七十三　歲時部之四

三月三日　上巳附出　五月五日　駒牽　六日附出

七月七日　相撲節　臨時相撲附出

巻七十四　歳時部之五

九月九日　天長節

冬〻至　朔旦冬至附出　大儺

巻七十五　歳時部六

告朔　二孟

巻七十五　音楽部

奏楽　五節舞　長寿舞

鐘　琴　箏　方磬

琵琶　横笛　歌

曲宴　十六日附出

歌垣　蟬歌

賞宴部上

公卿　賜餔

巻七十八　賞宴部下

賞賜　賜物附出

巻七十八　奉献部

献物　政理部

巻七十九　禁制

法制　賞功

選挙

勧誡

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

巻八十　政理部二
雜公文　牒式
意見　吉許柱
請印　度量　權衡大尺　採附出
員載法　材木法
常平倉　布帛長短法　解田　納表意　鐘附出　估價
巻八十三　政理部五　類雜
巻八十四　政理部六
〇〇　私出挙　質附出　借貸
公廨　受業師断　國儲
年粮　出納官物　収納官物
換納官物　交易物　乘官物
犯官物　隱截官物　焼山官物
免官物　免私貢附出
巻八十六　割國部
巻八十七　刑法部
断例　配流遠近　配流
断罪
巻八十八　罪人部上
武植安麻　出雲振根　狭穂麻王
鹿狩　坂王　忍熊王　大山守皇子
玉田宿禰　眉輪王　前津屋

国立国会図書館　三才雜録　特1000-3
ガラス使用

田狭臣弟君　星川皇子　平群真鳥
筑紫磐井　穴穂部皇子　物部守屋
蘇我馬子　蘇我蝦夷入鹿
古人皇子　有馬皇子　大津皇子

巻八十九　漢猟部
巻九十二　職官部四
巻九十九　叙位四　起延暦廿五年四月尽天安二年三月

巻百一　職官部六
叙位　起貞観十九年正月尽仁和三年正月

巻百七　職官部十三
巻百三十七　宮社部
巻百四十七　文部下　律令格式
巻百五十九　田地部上
田町段　扶田　班田
公田　官田　乘田
隠田　屯田　牧田
損田

巻百六十五上　祥瑞部上
日月星雲雨露雪　賀陽

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

同下
山雞　鷄　鳳
鸕鷀　鷺　荏　鳩
鴿　鴉　茅鴉　鷺　木兔
鵠鷸　烏

卷百七十一　災異部五
地異部五

卷百七十三　災異部七
火　蝗

卷百七十七　佛道部四
三合歳　疾疫

卷百七十八　同上
卷百七十九　同六
卷百八十　同七
卷百八十二　同九
卷百八十五　同十三
卷百八十六　同十三
卷百八十七　同十四
卷百八十九　同十六
卷百九十　風俗部
國禄　多称
梔玖人　隼人
蝦夷　俘囚
南嶋

卷百九十三　殊俗部
高麗
卷百九十四　渤海上
同下
卷百九十九　殊俗部
躭羅　吳國　崑崙　肅慎
流求人
通計六十五卷

享保七年寅正月被仰出御尋之書籍
新國史　本朝世紀　寛平御記

延喜御記　律集解　令集解
令抄　弘仁式　貞觀式
法曹類林　為政録　風土記
本朝月令
律　二卷ヨリ　一卷ヨリ　三卷ヨリ　六卷マテ　六卷マテ　八卷ヨリ　十二卷マテ
令集解　廿五卷ヨリ　三十七卷マテ　三十七三十九
類聚三代格　二四六九ヨリ　十一マテ
類聚國史
六ヨリ八マテ　十卷　十二ヨリ　十五マテ　十七ヨリ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

三十マテ 三十三ヨリ 三十五 三十七ヨリ 三十九マテ
四十一ヨリ 四十六マテ四十八ヨリ 五十三マテ 五十五
ヨリ 七十マテ 七十六 七十九 八十一ヨリ 八十六マテ
八十八ヨリ 百マテ 百二ヨリ 百六マテ 百八ヨリ 百四
十六マテ百四十八ヨリ 百五十八マテ 百六十ヨリ百
六十四百六十六ヨリ 百七十マテ 百七十二百七十
四ヨリ 百七十六 迄百七十八ヨリ 百七十九マテ百八
十一ヨリ 百八十四マテ 百九十ヨリ 二百マテ

元慶五年十二月 吾日尾張州中嶋郡從五
位下行丹波介ト部宿禰平磨ハ平磨ハ
伊豆國之人也幼而習 亀ト道 為神祇
官ト部 摺火作亀 支義疑多 効義和
之初遣使聘唐平磨以善ト術備於使
部使遣之後為神祇大史 嘉祥三年
轉少祐 斉衡四年 授外從五位下 天安二年
拜權大祐為宮主貞觀八年 迄三川權
少十年從五位下歴丹波介 年七十五

三代實録

遠近道印 本名藤井六郎左衛門 住江戸
巣鴨

増補辨ト鈔

渡會延経作
吉見幸和補

目録大意

一吉田ト部系圖偽作事

吉田家ノ先祖平麿ハ伊豆ト部ニテ天長年中ヨリ始テ出京シ先祖不詳ヨシ三代實録ニ分明ニ然ルヲ私ニ智治麿ノ子ト称シ中臣藤原ト同姓ノ申偽テ人ヲ欺ク事ト部ハ亀トノ職故ニト部二十人ノ内上首ヲ亀ト長上ト云然ルヲ神祇ノ長ト称シ神祇伯ニ任シタリト云偽ノ事

元祖平麿極官極位ハ從五位下丹波權介ナルヲ私ニ偽テ從三位神祇伯ト云三代實録ニ橘朝臣永名トアルヲト部朝臣平麿ト書替テ板行シ人ヲ欺ク常盤大連公ハ中臣氏ニテト部ニアラサルヲ吉田ノ先祖ト号シ中臣祓ヲ欽明天皇ニ奉授故中臣氏ニ改ルト云偽ノ事

壹岐ト部ハ雷大臣命ノ別種ニテ是ハ中臣氏ノ種類ニ吉田ト部トハ甚異ニ然ルヲ紛ラカシ混合セントスル偽ノ事

吉田ト部兼連ハ天和貞享ノ比ヨリ始テ

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

昇殿シ堂上ニナレリ吉田社祭天児屋命
ノ預リミテ社務ヲ兼帯故ニ二十二社同列
ノ家柄ナリ代ヽ左兵衛督ナレハ神祇伯ニア
ラスシテ諸国ノ社家ヲ指揮セシト云誤ノ事
第二吉田卜部 称神祇官領長上誤ノ事
吉田ハト部ノ長上ニテ神祇ノ長上ニ非ス神
祇長上ハ伯ノ下ニテ白川家代ヽ任之然ルヲ
偽称シアマツサヘ神祇官領ト云誤ノ下
ト部兼茂ハ白川家神祇白業資王ノ
家司ヽト部兼真白資宗王ノ家人ナ
レハ神祇官領長上ニアラサル下

吉田ト部ハ代ヽ亀ト長上ニ任シ神祇長上
ニアラサル證拠ノ下
第三 神祇四姓各其差隔別而就中ト
部ハ為下姓下 王氏中臣氏忌部氏ト
部氏是ヲ神祇四姓ト云各其職異ニシテ
混スヘカラス然ルヲ混雑シテト部氏ノ下
賤ナルヲ隠サントスル偽ノ下
中臣氏ハ祝詞ヲヨムト部氏ハ其解除ノ
役ヲ勤ル下
ト部氏ハ後取トテ賤職ナルト部氏ハ
神祇四姓ノ内ニテモ賜物モ甚減スル下

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

神宮ニ被申宣命ノ内ニ三姓ノ事ハ書載
ラルレ𪜈ト部氏ノ丁ハ宣命ニモ載サルヿ
ト部氏ハ中臣氏ノ引廻シニ預テ亀トヲ
勤ル丁

第四　ト部家造言偽書謀計ニ事

大職冠御附属ノ御書ト称シ偽作ノ文ヲ拵ヒ
神籬御正卯ト称シ偽レル印璽ヲ作出シ神
代ヨリ傳来ト云并中臣朝臣鎌子ト記ス
時代相違ノ丁

吉田社ハ行幸ナキヿナルヲ偽テ永延元年
行幸アルト云丁吉田家代々ノ名乗ニ兼ノ
字ヲ用レハ一條院ヨリ宸筆ヲ兼ノ字ヲ兼
延ヘ賜ルト云偽ノ丁

吉田家ニ一座ノ宣旨ヲ玉フ可為座上旨
院宣アリト云偽ノ丁

吉田家ニ神祇官領并南座勾當神祇伯
ニ任セラルヽト云偽リノ勅書ヲ作リ人ヲ欺ク丁

ト部兼直為七朝侍讀贈位贈官アリト
云勅書ヲ偽リテ衆人ヲ欺ク丁

吉田家天下諸社執奏ノ丁延長五年
勅裁ノ由偽ル丁

巻下目録大意

第一　吉田家新ニ開本社東山号斉場所
而称神祇官代誤ル事
吉田社、摂家ノ氏社ニシテ春日社ト同ノ天
児屋命ヲ祭ル吉田家ハ其社ヲ預ル神職也
兼俱カ時吉田社ノ後ロナル高キ山ヲ開キ斎
場所ト号シ殿舎ヲ建立シ人ヲ欺ヲ云昔
神武天皇ノ朝膳駒山ニ勧請アリシ斉
場所ヲ嵯峨天皇ノ御宇ニ如意山獄ハ移
シ其ヨリ吉田山ハ迂スト云大ナル偽ヲ造言
シ天皇及将軍家ヲ欺キ奸曲謀計
ヲ巧ミ賄賂ヲ以搢紳家ヲ徒黨シ已カ
偽ヲ蔽塞スルヿ并右斉場所ハ元来如
意嶽ノ観音ノ像ヲ納シ六角堂ナリ
シヲ大元官ト名付昔ノ神祇官ノ代ニ
模セントスル計謀ノヿ
第二　吉田家偽奏伊勢太神宮神体
飛迁吉田山ニ而奉欺天皇事并吉
田家不能入伊勢神境事
伊勢神宮炎焼ノ時神侍紛失ノ由申
立内外宮ノ神体并神宝共ニ吉田ノ斉
場所ニ飛迁玉フト云偽ヲ奏問シ既ニ治
定シ疑ナキ旨勅許アリシ故内外宮ノ神

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

宮ホ愁訴シテ遂ニ其偽アラハレ向後吉田ト部ハ伊勢神宮ヘ勅使ヽ被遣マシキ旨改断セラレ今以吉田家ハ伊勢ヘ参入ナラサル

第三　雖吉田家之外ト部一族不能入伊勢神宮事　猪熊神祇大副ト部兼魚ハ吉田ト別家ナレハ伊勢神宮ヘ勅使ヽ可遣旨勅命有トイヘ共神官ノ輩カタク拒ミ是又参入アタハサル事

第四　自吉田家日渡諸社神伴於諸社神伴伴於国伪事　并私授神階

誤之事

是ハ国中大小神社ノ神伴ヲ吉田ノ斉場所ヨリ渡シ奉リタリトイフ伪ヲ云出セシ事　并天下諸社ノ神階ヲ吉田家ヨリ授ヘシトイフ伪ノ事　天子ヨリ授タマフ実ノ神階ト吉田ヨリ出セル伪ノ神階ト甚ヒ差別アル事

第五　吉田家所用木綿手繦非古法

猥ニ社家誤ヽ事

吉田家ヨリ出セル木綿（手繦ハ古法ヽアラス上古ノ木綿ハ紙木ノ皮也然ルヽ

後世崑崙ヨリ渡リシ木綿ヲ用ルハ甚
故實ヲ肖ノ事元来赤綿手縫ヲ用
ル子細ヲ弁セスシテ加袈裟ヲ掛ルコトノ
心得テハ大ナル誤ノ事

第六　吉田家非天子而授官名於社
人且使非四位者浸着椽袍誤之事

吉田家裁許狀トテ社家人裝束ヲ
裁許スル由ヽテ官名ヲ私ヽ授テ朝
廷ヲ蔑如スル誤事洋衣ハ有位無
位ヲ論セス尊卑ヲ分タス神事ノ
時着用スル裝束ナルヽ其義ハ教ヘス
シテ狩衣ヲ無位ノ社人ヽ着セシメ
又無位ノ社人椽袍ヲ禮銀次第ヽユル
シトル事

第七　神職輩離吉田家之執奏し
別部官位為規摸事
社家ノ輩吉田家ヲ頼スシテ官位ヲ
申規摸トスル子細ノ事
將軍家ヨリ仰出サレヽモ吉田ヽ拘
ハラス何ヲ公家裁ヲ執奏セラレテ
モ官位勅許ノ筈證文有ル事

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

吉田家ニ
ル誤ノ事　神道傳来ノヤウニ覚エ

巳上

元禄十四年河内国壷井八幡宮神階之時宣
命位記太政官符

天皇我詔旨良万止河内国古市郡壷井八
幡宮乃遍仁座源朝臣頼信頼義義家
尓詔倍止敕命乎聞食止宣布振巌威於四
海比奉功名於万邦久武門之勇明時之
良将全感霊験弥仰安平久彼是以吉
日良辰乎擇定氐壷井権現度崇祭止
治賜布平久安久聞食良氐
天皇我朝廷乎宝位無動久常盤坐
磐仁夜守日守尓護掌祭比公道正
直尓武運延長尓惠助祭倍止恐美
恐美守祭者久止申久

元禄十四年九月三日

壷井権現

右可正一位

中務武徳大明壽策全備
請冠於千里建功於万年
宣崇威霊式贈位可依
前件主者施行

元禄十四年十一月廿二日

無品中務卿邦永親王　宣
正四位下行中務太輔
藤原朝臣資順　奉
從五位下中務少輔
兼行少内記中原朝臣職永　行

正二位行權大納言兼右近衛大將臣伊季
正二位行權大納言　道誠
從二位行權大納言兼右近衛大將臣綱平
從二位行權大納言臣　豐忠
同　持實
同　公量
同　篤親
同　公全
權大納言正三位臣　家久
同　師孝
同　為茂
正三位行權中納言臣

正三位行權中納言臣
同
同
同
同
同
同
同
正三位行權中納言兼左近衛權中將臣吉忠
制書如右請奉
時方
基勝
通躬
頼重
致季
経音
昭尹
尹隆
等言

制附外施行謹言
元祿十四年十二月廿二日
月日辰時　正四位下行大外記兼掃部頭造酒正中原朝臣師庸
左中弁兼康
関白從一位朝臣
大政大臣々
左大臣下二位朝臣
右大臣正二位朝臣
内大臣正二位朝臣

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

式部々々
正二位行式部大輔
三議從三位行左大弁俊清
告壷井權現奉
制書如右符到奉行
式部少輔 欠

元禄十四年十二月廿二日 大録 少録 少録
天皇我詔旨良万止 壷井乃權現乎申賜 倍止

白久各武略於八挺乎運志征戦大克邦
域畫静万留希世乃威烈奈利惟神源家
乃良将累代乃英氐多利是以正一位乃
極位乎授奉利崇奉留狀乎從四位下
行左兵衛權佐卜部朝臣兼章乎差使
氐神位記乎令特氐奉出給布此狀乎聞
食氐
天皇朝廷乎常盤堅般石乎護幸賜比氐
四海静謐乎武運延久乎護恤賜倍止申
給者久止申

元禄十四年十一月廿二日

太政官符　河内国

應奉　神位記事

納韓櫃一入合　宛丈二人

使從四位下行左兵衛權佐卜部朝臣兼章　從捌人

神ノ部　一人

右從二位行權大納言藤原朝臣宣奉

勅为奉壷井權現神位記差件等人宛

使発遣者国宣兼知依　宣施行仍

須国牧宰潔斉擇定使所与使者兵

披讀宣命然後国事請取位記奉之不

得遠失符到奉行

正四位上行右大弁藤原朝臣判

修理大寺大佛長官從四位上行左史小槻　宿禰判

元禄十四年十二月廿二日

後拾遺往生傳　三善为康撰　三卷

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

入道二品親王師明　三条四子　母大納言
源時女　寛弘二年八月一日生八年十
月五日為親王寛仁二年出家法名
世信
永保三年二月廿日叙二位
應徳二年九月廿七日寂卒八十一
中宮篤子　後二條四女
永久二年十月朔崩五十五同夜奉迎
雲林院
源俊房　保安二年十一月十二日薨年八十七
源義光　大治二年十月廿日死

一本ニ
貞純　生一條大宮桃園御所
延喜十五年四月廿一為親王
元慶六年十月晋元服　山州葛野郡八
條坊門六宮在本殿神
経基　拾遺ニ入　生西八條御所
延喜二年正月十一日元服
葬八條南壬生通北側大通寺号遍照
心院今在萬祥山　大宮一位
元録十四六孫王社建立号六孫王大權現
正一位

径生　石見　越後守　従五位上
玉源姓　母惟高女

公節　従五位下民部丞　忠季
母摂津守藤仲正女

満仲　生摂津国河辺郡多田弟延長三年
正月廿三元服　貞元二年二月十五日於叡山
出家

源賢　法眼住八尾号八尾法眼又住多田
小童子　子孫在丹波国　樹下集廿巻

作者後於入

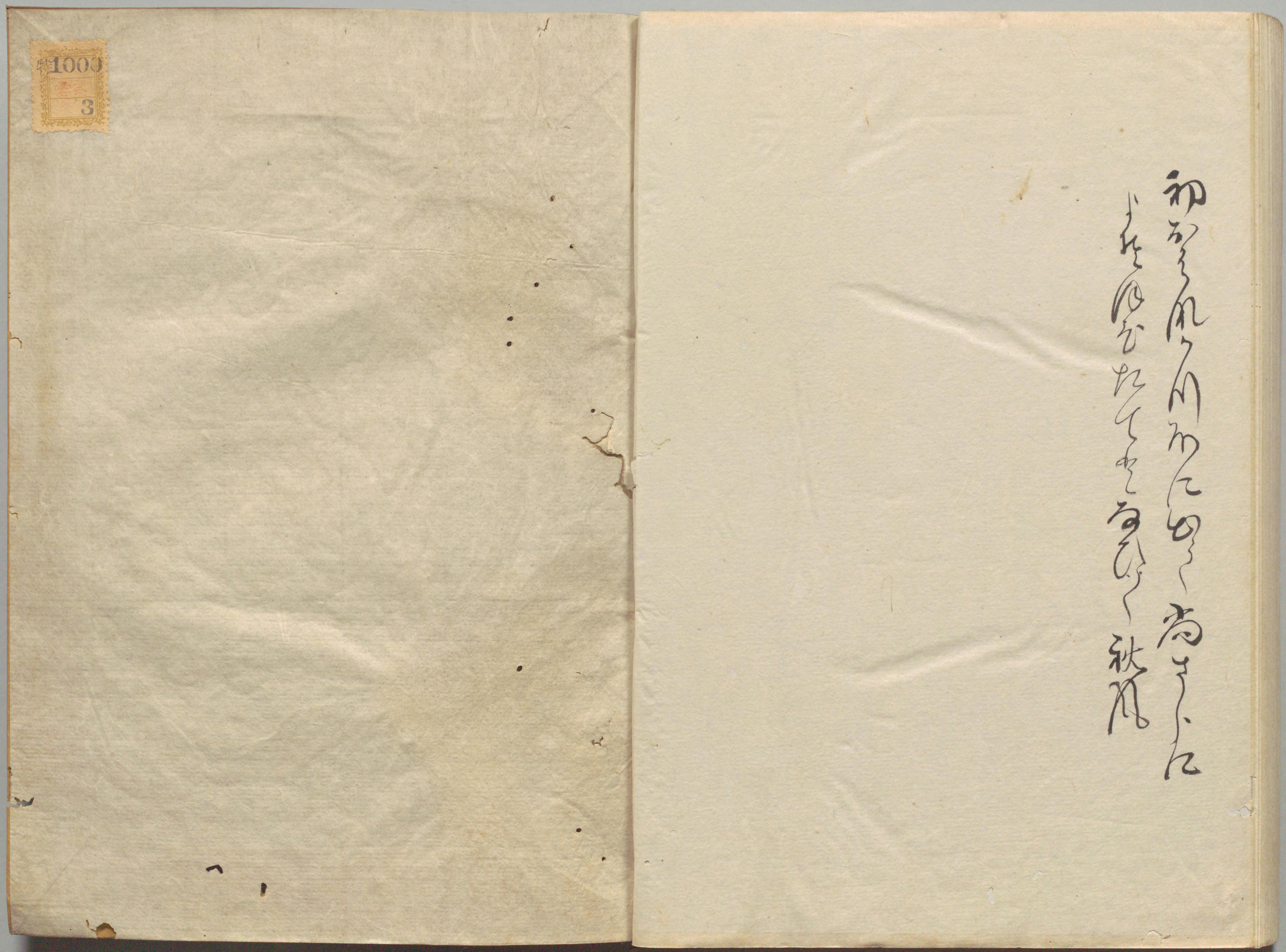
天禄元年三月十五日移多田城同五月頼光
為冷泉院判官代三年八月十日上総国ニ下
向　天延元年七月廿四日満成卒
寛和二八月十五日満仲剃髪
永延二年九月十八頼信元服　正六位下
正應元年頼光任肥前守
長保五年四月九日頼義生
長和二年九月元服　正六位　上兵庫允
長元元年五月廿日忠常　常陸国ニ討入国

司藤它昌ト戦七月廿五日平直方中原成
道下向 同三年十月十八日頼信甲州ヲ発シ
始寛仁四任河内守
治安三年八月 鎮守府将軍 後 甲斐守

河漏(ソバキリ)七首

いくたれはうきいのちかけてうくるかな
うはうん君を思きかけ
哀れ
のゆめ此君をとそ君のうは
如何ともそこうとるれめ
しのぶ
思ひけ
思ひ
思ひ
思ひ

特1000
3



国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用